

# 白水小学校 算数科スタンダード

■は特に大切にしたい手だて

授業前

## 実態把握

- 本単元を学ぶために必要な既習内容の定着を確認する。
- 児童の説明力の高まりをどこまで目指すのかの指標を設定する。
- 本単元の基礎となる既習事項の復習をする。

## 単元構成

- 定着させる学習内容を把握し、問題解決学習を位置付ける。  
教師側で指導すべきことはしっかりと、児童に考えさせるところはじっくりと
- 児童の興味・関心を高める教材の検討をする。

学習用具がきちんとそろっていることを確認して授業を始める。

導入

## 教材との出会い

- 本時で活用する既習事項の振り返りの場を設ける
- 具体物を提示することで、イメージをつかませ、意欲を高める
- 比較・対比によって、同じ点や違う点に焦点化を図る
- 児童との対話を大切にし、課題への焦点化を図る。

本時の学習への焦点化と学習意欲の喚起・向上を目指す

## 課題の設定

- 単元の全体計画による本時の課題設定の場合
- 本時に乗り越える新たなハードルとしての課題設定の場合
- 課題(あめて)は黒板へ青で板書し、児童のノートに転記させる。

なるべく短時間で課題を設定する

## 解決の見通し

- 答えを予想させる。(こうだから、こうなるはずだ)
- 手だてを予想させる。(前時に学んだ〇〇が使えそうだ)

自力で解決できる見通しをここで持たせることが大切

## 自力解決

- 解決の様子を見取り、つまずきをとらえる。
- 支援を必要としているかどうかを見極める。
- 必要最低限の支援により、自力解決に導く。
- 個別指導を中心とし、一斉指導は行わない。
- 誤答はこの段階で修正させる。
- 発表の準備をさせる。
- 児童に解き方の説明をさせる。(教師の居方)  
「まず…、次に…、最後に…」を使って…  
式と答えの読み上げだけにならないように…

児童自身が自分の解決方法を理解し、説明できるようにする。

## 解決方法の検討

- 違った視点を与え、別の解決方法に取り組ませる。
- 教師から別の解決方法を提示し、考え方を比べる場をもつ。
- 教師側の一方的な説明にならないよう配慮する。

展開の段階で、どれだけ子どもの言葉を引き出すことができたかがポイント

## 適用・練習問題

- 児童が自分で考えた解き方で問題を解決させる。
- 新たな解き方で問題を解決させる。

解決方法が理解(説明)できれば、適用問題も解決できるはず

## まとめ

- 本時で新たに学んだことを振り返る場を位置付ける。
- 児童の言葉を引き出し、まとめとして赤で板書する。

1単位時間の授業を振り返る。(やり残しは? 手だての効果は?)

## 定着の確認

- 宿題、ドリルタイム等を活用し、類似問題を解く場をもつ
- 単元末には、問題解決～説明まで位置付ける。

## 次時、次単元へ

- 授業としての振り返り(効果的な手立ては、今後の課題は)
- 本単元で学んだ説明力の活用(練習問題で、他教科で)
- 次の単元における説明力の指標の設定

授業後